

巻 頭 言

日本東洋医学研究機関連絡協議会会長

北里研究所東洋医学総合研究所所長

花 輪 壽 彦

平素は日本東洋医学研究機関連絡協議会（日東医協）の活動に御協力を賜りありがとうございます。

2002年10月21日、本会の創設者であられた矢数道明先生が96歳のご長寿を全うされました。茲に改めて生前の先生が残された数多くの御業績と、常に日本の漢方医学の将来を見据えた組織づくりの周到さに敬意を表します。

生前、矢数道明先生は個人会員からなる学会とは別に各研究機関どおしの「横の連携」の重要性を説かれ、昭和56年（1981年）にこの協会を発足させました。矢数先生が一番この会に望まれておられた事は恐らく、研究機関の数が増えることと研究機関の連携の成果としての『指針』や『ガイドライン』のような書物が年次的に刊行されることだったように思います。

先生の御遺志を生かすべく、以前より御案内申し上げてきた二点につき総会にて御意見を賜りたく存じます。

ひとつは研究機関の新規加盟承認の件です。このところ東洋医学の研究機関が大学の講座などを

中心に増えております。

本会の主旨に賛同される研究機関の自薦・他薦を含めて、組織の充実を図りたいと思います。

事務局より候補リストを別途、添付させていただきます。賛否、御追加などいただき総会にて最終の御承認を得たいと存じます。

もうひとつは教科書のことですが、昨年末に（社）日本東洋医学会より『入門 漢方医学』が刊行されました。当協議会でも矢数先生の御下命ですので、ぜひともなんらかの形の『標準教科書』を作成したいと考えております。

例えば総説的なものと研究成果の年報版を付したような形のものを作り、研究者の参考文献や研究指針の資料のようなものが、本協会の主旨に沿うように思われます。これは十分な議論が必要ですので小委員会を設置するなどの検討が必要と思われます。

結びに、本年も「会報」作りに御協力の程、感謝申し上げます。研究成果の年次報告は本会活動の一次資料となるものです。よろしく願いいたします。